
一人の男の転生記

忍冬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一人の男の転生記

【Nコード】

N5202Q

【作者名】

忍冬

【あらすじ】

とある男の転生記

生まれ変わった男を待ち受ける運命とは

(前書き)

気まぐれで書いた作品です。

神とは何なんだろうか？

絶対的な存在だろうか？人々に救いの手を差し伸べる存在？
それとも民衆の宣伝という幻想か？

俺は何かに入信しているわけでもなく、存在しないと考えているわけではない。

二次創作では神が間違えて人を殺して転生なんてこともある。

何故、俺がこんな事を言っているのには深い様で浅い理由がある。

俺は殺されたのだ。神と呼ばれている存在に

死んだ俺は目覚めると謎の空間で神を名乗る者に出会った。

神に自分が死んだと言われても何も感じる事ができなかった。

安定を求める平凡でつまらない生活。

そんな人生に浸かりきった俺は無欲になっていたのだろう。神は俺を無視して話を進め力を付け転生させた。

そして俺はとある山奥にある農村に住む夫婦の間に生を受けた。

前世では都会から出たことのない俺は全てが新鮮に感じた。

優しい両親、騒がしい幼なじみ、それを見守るおばちゃん達、いつも笑っているが鋭い村長さん。

そんな幸せな日々はそう続かなかった。

十七の時、俺は幼なじみに恋をしていた。

彼女の誕生日が近づいたある日、俺は忍冬という花を探しに山に行
った。

そして俺は忍冬を見つけたことができたが崖から落ちていった。

結果、俺が忍冬を探り村に帰るのは出発から二日後であった。

崖から落ちたとき痛めた右足を引きずって帰ってきた俺を待ってい
たのは燃え尽き支柱だけになった民家と辺りに漂う濃い鉄の臭いだ
った。

俺はすぐさま自宅に行った。

家には首なしの男の死体があった。

男の死体は手に鍬を持ったまま倒れており亡くなっていた。
着ていた服から親父だと言ったことがわかった。

幼なじみの家に行くとそこには数人の女の死体があった。

裸で体中が白濁にまみれた女達の中に母と、幼なじみの死体を見つ
けたとき手に持った忍冬がこぼれ落ち四散した。

俺は手を付き泣き続けた。

気がつくと入り口に村長さんが立っていた。

いつもの笑顔を無くした村長さんが全てを教えてくれた。

帝国と名乗る兵士達が来て貢ぎ物を要求したらしい。

その傲慢な態度に村人は反論したが兵士達は聞く耳を持たず食料を
奪い、村に火を放ち、立ち向かう男達を殺し、逃げ惑う女達を犯し
て去っていったらしい。

村長も俺と同じ様に丁度出ており難を逃れたらしい。そして生き延
びた村人に全てを聞いたらしい、直後その村人は息絶え、俺の泣き

声を聞いてきたらしい。
俺は村長さんの胸で泣き続けた。

泣き疲れ落ち着くと村長さんは最後に村人が伝えた両親の遺言を伝えた。

『幸せに生きる』

その一言で俺はまた泣き続けた。

しばらくし村長さんは村と共に残るらしい。俺も残る気だったが村長さんは残るのは自分だけでいいと言い反対した。

仕方なく幼なじみの形見になる物を探しているとペンダントと一通の手紙があった。

ペンダントは幼なじみが自慢していたので確信できた。
手紙は自分宛の恋文であった。

読み終わると丁寧に折りたたみ入っていた机の引き出しにしまった。

ペンダントを首にかけ村長さんに別れを告げると一通の手紙を渡された。

若手時代に仲のよかった親友らしいに頼んでくれるらしい。

そして俺は村を出た。

村長さんに教えられた町に向かう途中に服に忍冬の花びらが付いていた。

忍冬の花言葉・・・愛の絆

俺は虚ろな目で下を見ながら歩いていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5202q/>

一人の男の転生記

2011年10月7日01時42分発行